

ホンダ、新型コロナウイルス感染防止に「感染者搬送車両」と「フェイスシールド生産」

ホンダは4月14日、新型コロナウイルス感染症の対応に追われる医療現場や自治体への支援内容を発表した。4月13日に、港区・渋谷区へ「感染者を搬送するための車両を提供した。今後は都内等、まずは感染者の多いエリアから納車を予定しています。また、2020年5月末までに、医療現場でのニーズが高い「フェイスシールドの生産」を開始する。



図1 ホンダが自治体に提供する、感染者を搬送する車両。仕切りを設置して感染を防止

医療用フェイスシールドは、トヨタ自動車なども生産して支援することを発表している。ホンダは、ものづくりセンター栃木、鈴鹿などの国内事業所でフェイスシールドを生産し、医療現場に無償提供する予定だ。

また、需要が拡大している人工呼吸器についても、「生産支援を視野に引き続き検討している」（同社）という。

感染者を搬送する車両は、「オデッセイ」「ステップワゴン」などの車両を使って、運転席と後部座席の間に仕切りを設置して製造。前後席間の圧力差を利用して、搬送時の飛沫感染を抑制する構造に仕立てている。

■ 車両イメージ

圧力差でドライバーへの飛沫感染を防止

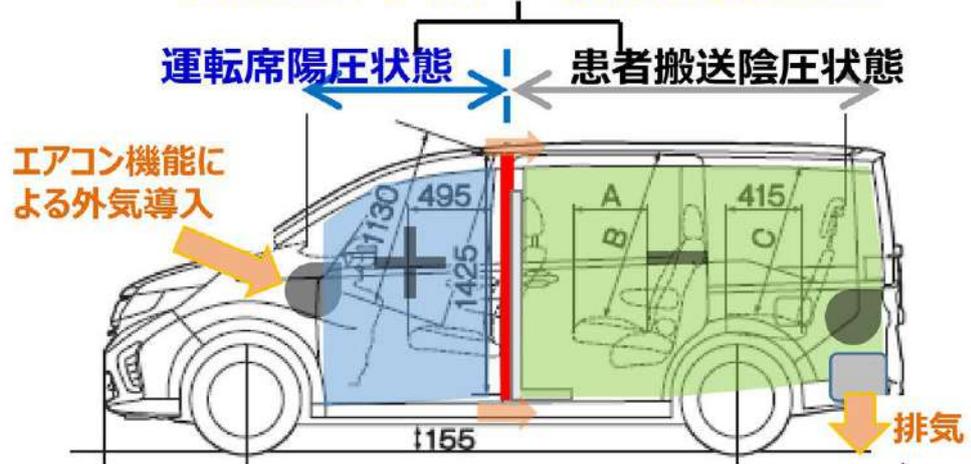


図2 感染者を搬送する車両の構造

この車両は、軽症者や無症状者の移動を支援するために自治体に提供。4月13日に東京都港区と渋谷区に納車した。今後、埼玉製作所(狭山工場)をはじめ、国内事業所で製造し、東京都内など感染者の多いエリアから納車していく予定だ。

日本語原文 <https://www.honda.co.jp/news/2020/c200414.html>

文 JST 客観日本編集部